

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

80



政府が再生可能エネルギーの全量買い取り制度を今年7月にスタートさせて以来、太陽光発電を自宅に設置する人が増えており、設置した人は100万人を超えたといわれています。わが家にも太陽光発電会社から営業の電話が頻繁にかかってくるのが現状で、太陽光パネル設置業者も業

いる方には、さまざまな追い風が吹いているともいえます。ただ、普及するにつれてマイナスイ面もよく聞かれるようになりました。防水処理不足による雨漏りや設置後の発電量の低下などの苦情が国民生活センターへ多く寄せられるようになるなど相談件数も増え続けています。

### 注目の新エネルギー⑥

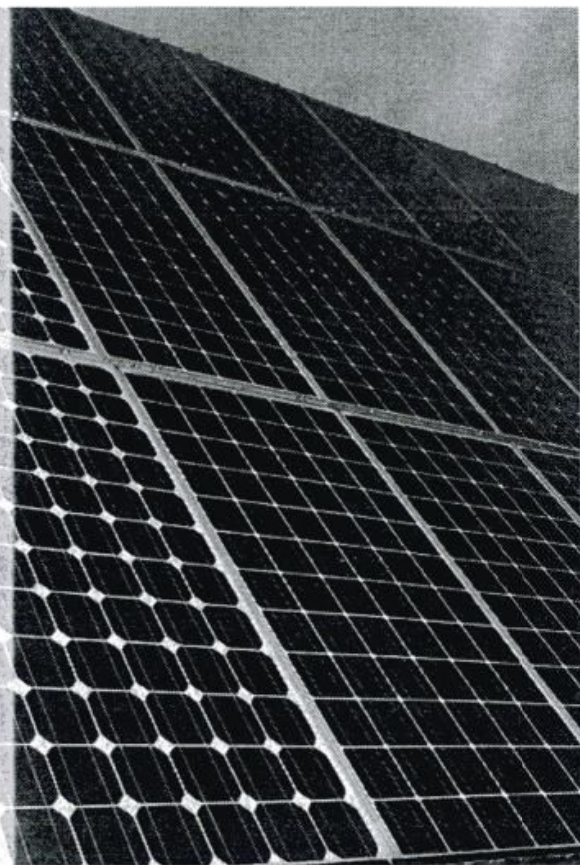
## 確認や事前の知識必要

メーカーの太陽光パネルの発電効率や特色などを質問しましたが、パネル製品に関する答えは分からないという事で何一つ聞くことができません。しかも、価格はどこよりも安くしますと価格の話しかできません。少なくとも製品の説明ができないような業者はアフターケアやメンテナンスの事を考えると避けた方が良いでしょう。太陽光パネルを設置後に、こんなはずではなかつ

者間の競争により設置価格も安くなってきました。また、企業向けの大規模な太陽光発電設置の広告も目に付くようになりました。同時に地方銀行も太陽光発電事業に関して積極的に融資を促している現状です。その背景にはドイツの約2倍という政府の電気の買い取り価格が利益を生み、ビジネスとして成り立つという構図があります。これから設置を検討して

過日、県内で環境啓発イベントが開催され、筆者も参加しました。このイベントには太陽光パネル設置業者など、再生可能エネルギー関連企業も数社参加していました。ある太陽光パネル発電設置企業は、ブースの前面に太陽光パネルを設置した施工実績の写真をいくつか展示し、2人のスタッフが来場者に説明をしていました。筆者はそのスタッフに各

たという思いを未然に防ぐ一つの方法が、施工業者の技術者がメーカーから施工方法を身につけたという証明である施工IDによる確認や工事に伴う保険などがあります。このように事前知識を持っておくことも必要ではないでしょうか。(社団法人まちづくり国際交流センター理事長) 第2、第4、第5水曜日掲載



駆け込み需要が増え、違うメーカー機種を急いで一緒に設置された (ドイツで)